

COINHIVE設置サイト摘発の流れ

- 2018年3月 Coinhiveを自身のウェブページに設置した数人が不正指令電磁的記録に関する罪で検挙され、横浜簡易裁判所が罰金十万円の略式命令を出す。
- 2019年1月 webデザイナーの男性に対する公判が横浜地方裁判所で始まる。
- 2019年3月 横浜地方裁判所は不正指令電磁的記録に関する罪には当たらないとし、無罪判決を出す。
- 2019年4月 横浜地方検察庁が東京高等裁判所に控訴する。
- 2020年2月 東京高等裁判所は地裁判決を破棄し、罰金十万円の有罪とする。

COINHIVEとは

COINHIVEとは、サイトの運営者が、閲覧者に仮想通貨を採掘させ、その収益を受け取るサービスである。専用のJAVASCRIPTコードをサイトに埋め込むと、そのサイトを閲覧した人のPCのCPUパワーを使い、仮想通貨「MONERO」を採掘。採掘益の7割が、サイト運営者に配分される（残りの3割は手数料として運営元・COINHIVE TEAMが受け取る）。サイト運営者からはインターネット広告に代わる新たな収益源として注目されていたが、閲覧するとその瞬間から採掘が開始され拒否することができず、デバイスのCPUを100%使い切るので負担が大きいとの声も上がっている。（参考：ITMEDIANEWS

[HTTPS://WWW.ITMEDIA.CO.JP/NEWS/SPV/1710/11/NEWS084.HTML](https://www.itmedia.co.jp/news/spv/1710/11/news084.html))

この事件において注目すべき点

＜COINHIVEは不正な指令を与える電磁的記録、すなわちウイルスに該当するのかと言う点＞

横浜地方裁判所はこれに該当しないとして無罪判決を出したわけだが、東京高等裁判所のウイルスに当たるとし有罪判決を出した。これに対し、COINHIVEにおいて、具体的な不正な指令についての考慮がなされていないという意見が上がっている。また、JAVASCRIPTは多くの広告表示やGOOGLE ANALYTICSなどでも使われているものであり、曖昧な基準でウイルスを定義すると技術者の萎縮を招くとも言われている。

＜警察側の検挙などの対応が行き過ぎであるのではないかと言う点＞

横浜地方裁判所は無罪判決を出した際に、事前の注意喚起などもなくいきなり刑事罰に問うのは行き過ぎではないかと指摘している。また検挙に対して、法の乱用や恣意的な解釈ではないかという意見もある。

(参考：ITMEDIANEWS [HTTPS://WWW.ITMEDIA.CO.JP/NEWS/ARTICLES/1806/12/NEWS078.HTML](https://www.itmedia.co.jp/news/articles/1806/12/news078.html)
YAHOOニュース [HTTPS://NEWS.YAHOO.CO.JP/ARTICLES/5E2168C04C91AE35291C9781CF9CE84A3C9C334F](https://news.yahoo.co.jp/articles/5e2168c04c91ae35291c9781cf9ce84a3c9c334f))